さとがき

http://www.satogaki-e.kofu-ymn.ed.jp/　里垣小ホームページ

里垣小学校だより
平成 30 年 2 月 5 日
甲府市立里垣小学校
校長　柏木　精一

「すべては子どものために」

寒さに負けず学年のまとめを

立春を過ぎ暦の上では春を迎える時期ではありますが、列島全体が寒波に包まれており、暫くは厳しい寒さが続くと予報されています。空気の乾燥も重なり本校でもインフルエンザが流行し、３学期に入り３つの学級が罹患者が多いために学級閉鎖の措置を取りました。流行拡大を防ぐための措置とはいえ、保護者の皆様には仕事等をやりくりする中で対応していただきありがとうございました。お陰様で本校児童の罹患者は随分減少しましたが、引き続き手洗いやうがい等を励行させ、再びの拡大にならぬよう努めて参ります。

年明けには、大相撲１月場所の竜雷関の活躍と国体冬季スケート大会の開催に山梨県民が盛り上がったと思います。中でも竜雷関におかれては、平成以降初めての山梨県出身の力士として、新入幕で１０勝を挙げての勝ち越しに加え、三賞受賞まで手にされました。彼は、３度の股関節骨折の大怪我と番付最下位の序の口まで陥落という力士生命の危機を乗り越えて復活され、多くの県民が勇気と感動をいただいと思います。また、竜雷関と同期入門であり、１月場所で優勝したジョージア出身の栃ノ心関も右膝靱帯断裂で幕下まで陥落しながら、復活されての幕内優勝は見事でありました。両力士共に辛く厳しい時期を耐え抜いて、諦めずに大輪を咲かせたことに大きな拍手が送られました。ひた向きに精進を重ね目標を達成した姿に学ぶべき点が多いと思いました。

餅つきと昔遊び

毎年、里垣地区では、新年に餅つきと昔遊びの催しを行っており、青少年育成推進協議会、食生活改善推進委員会、民生児童委員協議会、里垣子ども広場の皆様が総出で前日から準備をしてくださいました。当日は、風もない晴天に恵まれ、朝早くから多くの子どもたちが訪れました。お父さん方が力強く杵を振り上げて餅をつき、お母さん方が餅に黄な粉や餡子をまぶしてくれました。子ども用の杵も用意されていて順番に楽しそうに餅つきをしていました。つきたての餅はおいしく、思わず食べ過ぎてしまった子どももいました。また、甲州弁かるた、羽根つき、独楽回しなどもあり、みんなで一緒に楽しく過ごしました。慣れない独楽回しに苦戦する姿も見られました。

昔は、何件ものお宅で朝早くから薪を燃やしてもち米を蒸かして、家族総出で餅つきをすることが年末の風物詩であったようです。餅つきは、まず杵の先に体重をかけてもち米を押し潰して（この作業を「こづき」といいます）ひとまとまりにしていきます。

「こづき」の素早さ念入りさが餅の出来に大きく影響してきます。その後、つき手と返し手が息を合わせてペッタンペッタンとついていきます。今は、スーパーなどで購入することが多い餅ですが、昔ながらの餅つき体験は子どもたちの思い出の１ページに残ったことでしょう。

地域の方の雪かきに感謝です

１月２２日の昼過ぎから夜半にかけて５cm程の降雪があり、雪かきの為に翌朝早くに職員が出勤しましたが、その時には、既に学校西側の高倉川土手の道路がきれいに除雪されておりました。地域のどなたかが除雪してくださったと感謝の気持ちで一杯でしたが、どなたか分からずお礼もできずじまいでした。改めて地域の皆様に支えられていることを実感した出来事でした。また、２月２日の朝も降雪があり、地域の皆様が早朝から通学路の除雪をする姿を見まして、子どもは地域に見守られていることを感じました。

児童会役員選挙

来年度の児童会活動の中心になる児童会長と副会長を選ぶ児童会役員選挙が行われました。５年生から児童会長１名と副会長２名、４年生から副会長１名が選出されました。特に５年生と４年生はクラス全員で協力して選挙運動に取り組んでいました。

本校の児童会会則にその目的として「この会は、私たちの学校を私たちの力でより良くするために、みんなで考えを出し合い、協力し合い、明るく楽しく、そして決まり良い学校になることをめあてとします。」と記されています。このことからも、児童会活動は子どもたちに自治的な能力の向上を目指していることがわかります。

いよいよ今まで児童会活動を引っ張ってくれた６年生から、下級生にバトンが渡される時期になります。その大きな行事が６年生を送る会であり、学年ごとに分担して準備をしております。５年生を中心として、これまでお世話になった６年生に感謝の気持ちが込められた素晴らしい会になるよう指導していきます。

「小１プロブレム」「中１ギャップ」対策

「小１プロブレム」「中１ギャップ」と言われる現象をご存知でしょうか。幼稚園・保育園から小学校への入学、小学校から中学校への入学により、それまでの学習形態等が大きく変化することにより発生する様々な不適応の現象を指しております。

「小１プロブレム」としては、幼稚園や保育園は「遊び」や「体験」が重視されるのに対し、小学校は教員による「座学」での教科学習が中心になり、精神的な幼さ等から集団行動がとれず、教師の話を聞けない、一定時間を静かに過ごすことができない状態に陥るなどの行動が見られます。

「中１ギャップ」としては、不登校やいじめが増加する傾向があります。背景には、小学校と中学校での教え方（中学校では教科担任制）や授業の速度の違いによるつまずき、人間関係の変化、心身の発達(思春期)、校則や生活指導の厳格化、部活動の本格化など幾多の原因が作用し合って起こると考えられます。

この「小１プロブレム」「中１ギャプ」を和らげるために、本校職員と園や中学校の先生方が入学する個々の幼児や児童についての情報交換を行い、その特性に応じた指導に努めたり、お互いの授業参観や学習内容の確認をしております。また、先日は東中学生が本校を訪問して直接６年生に中学校生活の様子を話してくれたり、本校の新入学児童保護者説明会の折に園児と１年生の交流会を持つなど、子ども同志の交流も図っております。